

4

ハードウェアについて

本章では、各ハードウェアについて説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

- 1 周辺機器の取り付けについて 94
- 2 機能を拡張する 95
- 3 PC カードを使う 100
- 4 フロッピーディスクを使う 104
- 5 USB 機器を接続する 110
- 6 i.LINK (IEEE1394) 機器を接続する .. 111
- 7 CRT ディスプレイを接続する 114
- 8 メモリを増設する 117

周辺機器の取り付けについて

本書で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各項を読んでから作業してください。



注意

- ・ホットインサージョン（パソコン動作中の取り付け／取りはずし）が認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。電源を入れたまま接続すると、感電・故障のおそれがあります。
- ・パソコン本体に周辺機器を取り付けた状態で持ち運ばないでください。故障の原因となります。



お願い

- ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業してください。
- ・静電気が発生しやすい環境では作業しないでください。
- ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさにあったものを使用してください。
- ・本製品を改造すると、保証やその後のサポートは受けられません。



メモ

- ・本書で説明している周辺機器や機能を使用するには別途市販の機器が必要な場合があります。

パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して接続してください。

- ・PCカードやコネクタの上下を合わせる
- ・ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジを締める



お願い

- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、この他に作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をお読みください。

2 機能を拡張する

本製品右側面の拡張コネクタには、別売りのI/Oアダプタ、ミニI/Oアダプタ、マルチメディアポートリプリケータのいずれかを接続して使用することができます。



お願い

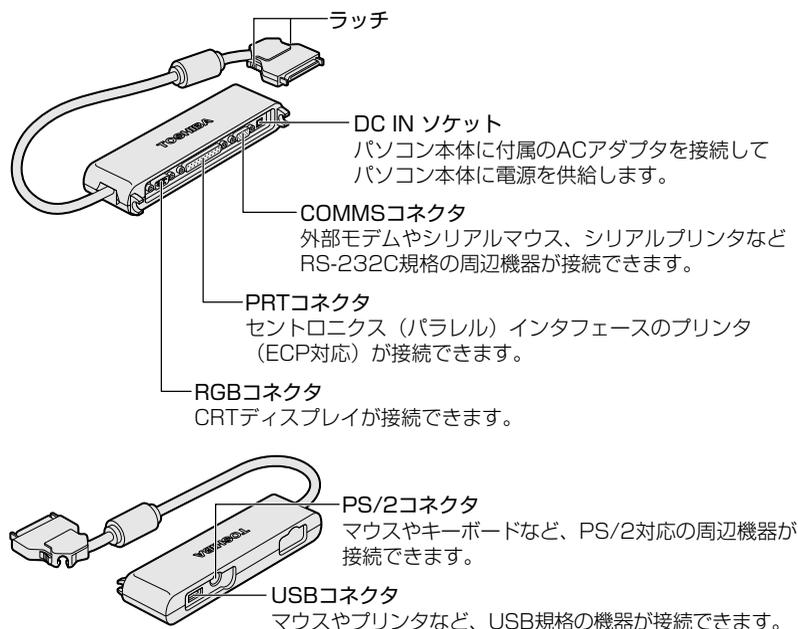
・上記の機器のいずれかを接続している場合、CRTディスプレイはパソコン本体ではなく、接続した機器側のRGBコネクタに接続してください。

I/Oアダプタ

I/Oアダプタを接続することで、次の周辺機器が使用できます。

- セントロニクス（パラレル）インタフェースのプリンタ
- RS-232C規格の周辺機器（シリアルマウスや外付けモデムなど）
- CRTディスプレイ
- PS/2マウスやキーボード
- USB規格の周辺機器

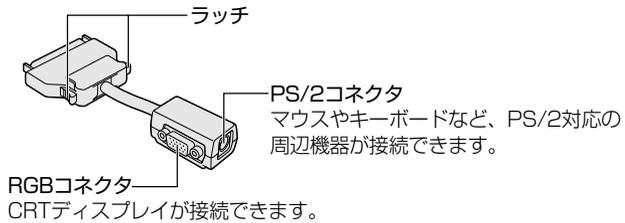
DC INソケットには、パソコン本体に付属のACアダプタを接続して使用できます。ACアダプタと電源コードを接続すると、I/Oアダプタを通して、パソコン本体に電源を供給することができます。



● ミニ I/O アダプタ

ミニ I/O アダプタを接続することで、次の周辺機器が使用できます。

- CRT ディスプレイ
- PS/2 マウスやキーボード



● マルチメディアポートリプリケータ

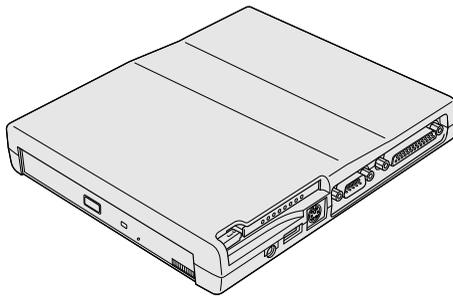


お願い

- ・パソコン本体にマルチメディアポートリプリケータを接続して使用する場合は、必ずマルチメディアポートリプリケータの電源コネクタにACアダプタを接続してください。パソコン本体の電源コネクタにACアダプタを接続すると、正しく動作しません。
- また、バッテリー駆動で使用すると、パソコンの電源が切れる場合があります。

マルチメディアポートリプリケータを接続すると、次のような使いかたができます。

- ACアダプタを接続して、パソコン本体に電源を供給する
- CD-ROMドライブを使用する
ハードディスクドライブ（別売り）と交換できます。
- 周辺機器を使用する
 - ・RS-232C規格の周辺機器
 - ・セントロニクス（パラレル）インタフェースのプリンタ
 - ・CRTディスプレイ
 - ・PS/2マウスやキーボード
 - ・USB規格の周辺機器
 - ・PCカード（Type IまたはIIのCardBus対応のカード）
 - ・オーディオ機器
- LANに接続する



☞ 詳細について ⇄ 『マルチメディアポートリプリケータに付属の説明書』、

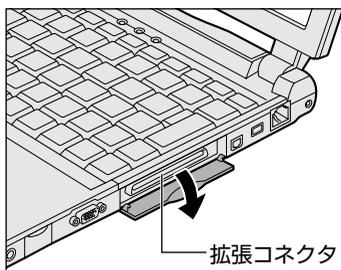
2000 《リリース情報》

● 取り付け

- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

⚠ 注意 ・パソコン本体に電源が入っている状態で、I/O アダプタ、ミニI/O アダプタ、マルチメディアポートリプリケータの取り付け／取りはずしをしないでください。
故障の原因となります。

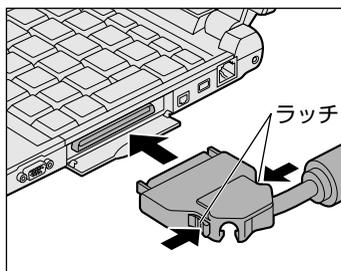
- 2 パソコン本体のコネクタカバーを開く



- 3 接続ケーブルのコネクタを、上下を確認し接続する

コネクタはラッチを押しながら取り付けてください。

*イラストは I/O アダプタのケーブルです。



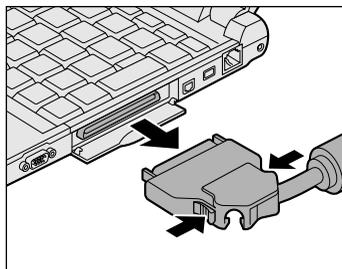
● 取りはずし

1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から接続ケーブルを取りはずす

コネクタのラッチを押しながらか取りはずしてください。

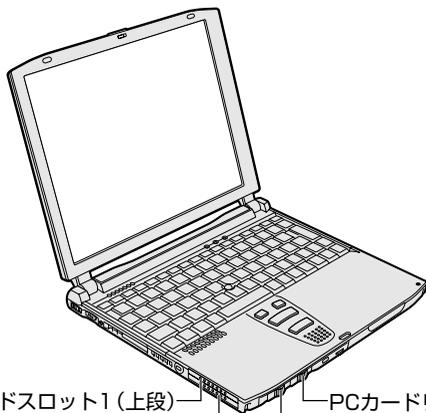
ケーブルを引っ張らないようにしてください。



3 コネクタカバーを閉じる

3 PCカードを使う

PCカードスロットには、PC Card Standard TYPE II／Ⅲ(3.3V、5V)に対応したPCカードを2枚まで取り付けることができます(TYPE Ⅲの場合は、1枚のみ)。



PCカードスロット1(上段)
PCカードスロット0(下段)

PCカードリリースレバー0
PCカードスロット0に入っている
PCカードを取り出します。

PCカードリリースレバー1
PCカードスロット1に入っている
PCカードを取り出します。



注意 ・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコンの電源を切ってから取り付けてください。電源を入れたまま取り付けると、パソコンやPCカードが故障するおそれがあります。



メモ

・ホットインサクション

パソコン本体の電源を入れたままで、PCカードの取り付け／取りはずしをすることをいいます。ただし、PCカードによっては、この機能に対応していないものもあります。

・市販されているPCカードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。

また、他のカードと一緒に使用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。

使用できる PC カードのタイプは、取り付けるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1 (上段)	TYPE II
0 (下段)	TYPE II/Ⅲ

PC カードの例を次にあげます。

- ・ モデムカード
- ・ SCSI アダプタ
- ・ フラッシュメモリ
- ・ LAN カード
- ・ CardBus 対応のカード



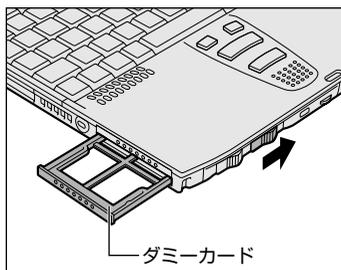
・ スロット 0 に TYPE Ⅲ の PC カードを取り付けた場合には、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

『PC カードに付属の説明書』

取り付け

1 PC カードリリースレバーを右へスライドする

ダミーカードが出てきます。



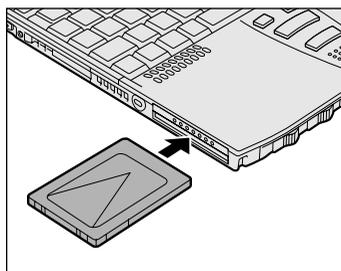
2 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように、保管してください。

3 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する

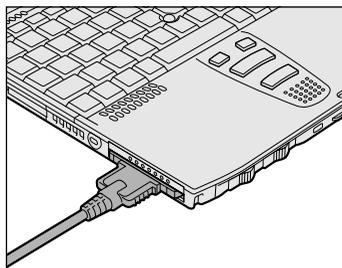
PC カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに、PC カードがつきあたるまで、静かに押ししてください。

PC カードが十分に押し込まれると PC カードリリースレバーが左に移動します。



4 PCカードにケーブルをつける

LANカードなど、ケーブルが必要なカードの場合は、ケーブルを接続してください。



カードを接続した後、カードを使用できる環境かどうかを確認してください。

☞ PCカードの環境の設定 ☜ 『PCカードに付属の説明書』



注意 ・ケーブルを取り付けたまま、持ち運ばないでください。ケーブルのコネクタが破損するおそれがあります。



お願い

・ケーブルを取り付けた状態で、ケーブルを強く引っ張らないでください。PCカードが抜けることがあります。

● 取りはずし



注意 ・PCカードの使用終了は必ず行なってください。使用終了せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。
・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ず電源を切ってからPCカードを取りはずしてください。電源を入れたまま取りはずすと、パソコンやPCカードが故障するおそれがあります。



お願い

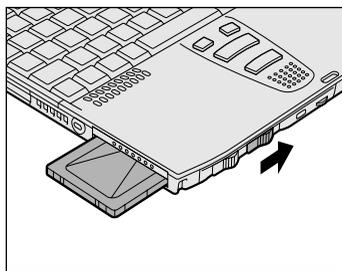
・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから、取りはずしを行なってください。

1 PCカードの使用を終了する

- ① タスクバーにある **Me** [ハードウェアの取り外し] アイコン、**2000** [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をダブルクリックする
- ② 表示される画面で終了するPCカードを選び、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 停止するPCカードを確認して、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [ハードウェアの取り外し] 画面で [閉じる] ボタンをクリックする

2 PCカードリリースレバーを右にスライドする

カードが少し出てきます。



3 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

4 ダミーカードを挿入する

4 フロッピーディスクを使う

本製品には、USB 接続タイプのフロッピーディスクドライブが用意されています。

フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、他のパソコンとデータをやり取りすることができます。

1 フロッピーディスク

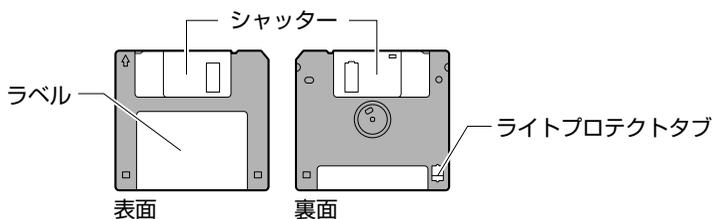
使用できるフロッピーディスクの種類と、保存できる容量は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

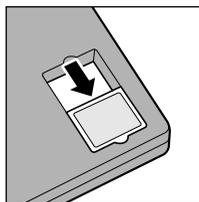
1枚あたりに保存できる容量は、フォーマットのときに指定します。

● ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

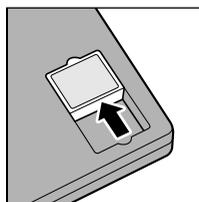


書き込み禁止状態



ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。
データの読み取りはできます。

書き込み可能状態



ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

② フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしの方法については「本章 5 USB 機器を接続する」をご覧ください。



● 使用上のお願い

フロッピーディスクドライブをお使いになる場合は、次のことに注意してください。

- フロッピーディスクドライブを、斜めや垂直、上下逆さまに置いた状態で使用しないでください。必ず水平に置いて使用してください。データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブ、パソコン本体が壊れる可能性があります。
- フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れる可能性があります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。
- フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを入れたまま持ち運ばないでください。



注意 ・パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（フロッピーディスクドライブのLEDが点灯しているとき）に、電源を切ったり、ケーブルを抜いたりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

● フロッピーディスクから起動する

フロッピーディスクから起動する場合は、次の設定を行なってください。

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックし、[東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする



[コントロールパネル] 画面に [東芝 HW セットアップ] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。

- 2 [USB] タブで [USB-FDD Legacy Emulation] を「Enabled」に設定する



・通常は [USB -FDD Legacy Emulation] を「Disabled」に設定しておいてください。

- 3 [Boot Priority] タブで [Boot Priority Options] を [FDD] が最初になるように設定する
- 4 [OK] ボタンをクリックする

③ フロッピーディスクのフォーマット

新品のフロッピーディスクを使うときには、使用するシステムにあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。

新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクは、必ずフォーマットを行なってください。

他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。



お願い

・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

● フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳しくは、『Windows のヘルプ』をご覧ください。



メモ

・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。

・2HD フロッピーディスクを2DD タイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。

・フォーマット形式は、2DD の場合は 720KB、2HD の場合は 1.44MB のみになります。

- 1 フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックする

3 [3.5インチFD (A:)] のアイコンをクリックする

[3.5インチFD (A:)] のアイコンが選択され、アイコンの色が反転します。

4 [ファイル] メニューの [フォーマット] を選択する

5 フォーマット方法を選択し、フォーマットを行う

未フォーマットのフロッピーディスクを使用して、フォーマットや起動ディスクの作成をする場合、かなり時間がかかることがあります。



① フォーマット方法を選択し、[開始] ボタンをクリックする

未フォーマットのフロッピーディスクの場合、クイックフォーマットはできません。



(表示例)

フォーマットが開始されます。

フォーマットが終了すると、フロッピーディスクの情報が表示されますので、確認してください。

② [フォーマット結果] の内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

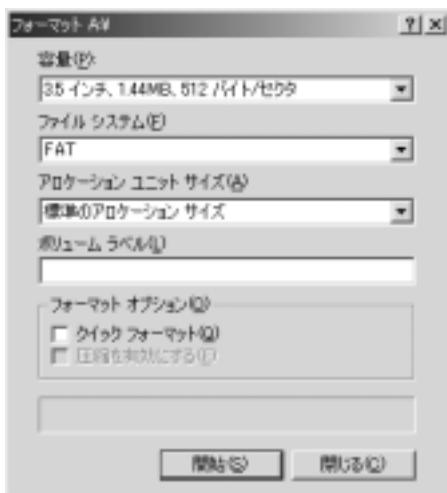
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実施します。

フォーマットを終了する場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。

2000

- ① 必要に応じて、[容量] や [フォーマットオプション] を設定し、[開始] ボタンをクリックする

未フォーマットのフロッピーディスクの場合、クイックフォーマットはできません。



(表示例)

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終了すると、「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されます。

- ② [OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実施します。
フォーマットを終了する場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。

5 USB 機器を接続する

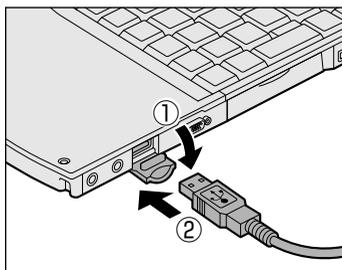
本製品には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが用意されています。

別売りの I/O アダプタまたはマルチメディアポートリプリケータを接続した場合も、USB 機器を使用することができます。

☞ 「本章 2 機能を拡張する」

● 取り付け

- 1 USB コネクタカバーを開け①、USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む②



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 機器に差し込む
手順 2 が必要ない機器もあります。



お願い

- ・ USB 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS)、および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ 今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。

● 取りはずし

- 1 パソコン本体と USB 機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

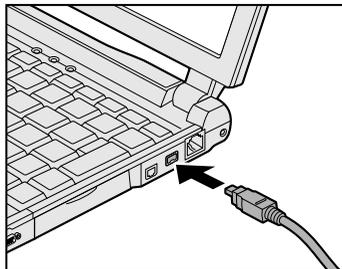
☞ USB 機器についての詳細 ☞ 『USB 機器に付属の説明書』

本製品には、i.LINK (IEEE 1394) 規格の機器を取り付けることのできる、i.LINK コネクタが用意されています。

● 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む

コネクタの向きを確認して差し込んでください。



2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む



お願い

- ・ i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行なっておりません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作を保証するものではありません。
- ・ ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) をご使用ください。
詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- ・ 2m以上の長さのケーブルは使わないようにしてください。
- ・ 取り付ける機器によっては、スタンバイ機能または休止状態が使用できなくなる場合があります。
- ・ i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。その場合のデータ内容は保証いたしかねます。

● 「Ulead VideoStudio」について

デジタルビデオカメラからの映像の取り込み、編集を行うソフトウェアとして、「Ulead VideoStudio」をご用意しています。



メモ

・使用できるデジタルビデオカメラについては、次のホームページをご覧ください。

 <http://www.ulead.co.jp/vs/comptvs4me.htm>

 <http://www.ulead.co.jp/vs/comptvs4.htm>

● 使用上のお願い

「Ulead VideoStudio」でデジタルビデオカメラをご使用になる場合、次のことに気をつけてお使いください。

- 「Ulead VideoStudio」を起動する前に、簡易操作マニュアル(*1)の「0. 事前準備」に従って、デジタルビデオカメラからキャプチャするための初期設定を行なってください。初期設定を行わないと、正しくキャプチャできません。
- デジタルビデオカメラを接続して「Ulead VideoStudio」を使用している間は、デジタルビデオカメラの電源を切ったり、ケーブルを抜いたりしないでください。接続についての警告メッセージ(*2)が表示されます。
- デジタルビデオカメラからの画像取り込みや書き戻しは、ACアダプタを接続した状態で行うことをおすすめします。コマ落ちが発生する場合は、ディスクの最適化(*3)を行うか、または他のアプリケーションを終了させてください。
- デジタルビデオカメラから映像を取り込む際に、最初の数フレームがコマ落ちすることがあります。最初の数秒はストーリーボードモードで削るなどしてください。
- 映像をデジタルカメラから19分以上連続して取り込んだ場合、または静止画の取り込みがうまくいかない場合には、警告メッセージ(*2)が表示されます。



メモ

 **2000**

お使いのデジタルビデオカメラによっては、キャプチャボタンをクリックしてもキャプチャできない場合があります。その場合は、デジタルビデオカメラを手動で再生状態にしてから、キャプチャボタンをクリックしてください。詳しくは、ユーザーガイドまたは簡易操作マニュアル(*1)をご覧ください。

- (*1) ユーザーガイドまたは簡易操作マニュアルの起動方法
[スタート] - [プログラム] - [Ulead VideoStudio] - [ユーザーガイド] または [簡易操作マニュアル] をクリック
- (*2) お使いのデジタルビデオカメラによっては、警告メッセージが表示されるまでに時間がかかる場合があります。また、警告メッセージが画面の背後に隠れている場合もありますので、[Alt]キーを押して表示画面を切り替えてください。
- (*3) ディスクの最適化
[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] -  [デフラグ]  [ディスクデフラグ] をクリック

● 取りはずし

- 1 タスクバーの  [ハードウェアの取り外し] アイコン、
 [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン
() をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く



×E

・デジタルビデオカメラを取りはずすときは、手順 1～3 は必要ありません。

🗨️ i.LINK 対応機器についての詳細 ⇨ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』

7 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタに CRT ディスプレイを接続できます。

CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

本製品では VGA と SVGA のビデオモードをサポートしています。

1 取り付け／取りはずし

● 取り付け

- 1 CRT ディスプレイに付属のケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む

コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

- 2 CRT ディスプレイに付属のケーブルのもう一方のプラグを CRT ディスプレイのコネクタに差し込む

● 取りはずし

- 1 RGB コネクタに差し込んである CRT ディスプレイに付属のケーブルのプラグを抜く

② 表示方法の切り替え

CRT ディスプレイを接続した場合、次の表示方法があります。

- ・ CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- ・ CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- ・ 内部液晶ディスプレイだけに表示する



お願い

- ・ 次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・ データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
 - ・ 通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。



メモ

- ・ CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

● 方法 1—画面のプロパティで設定する

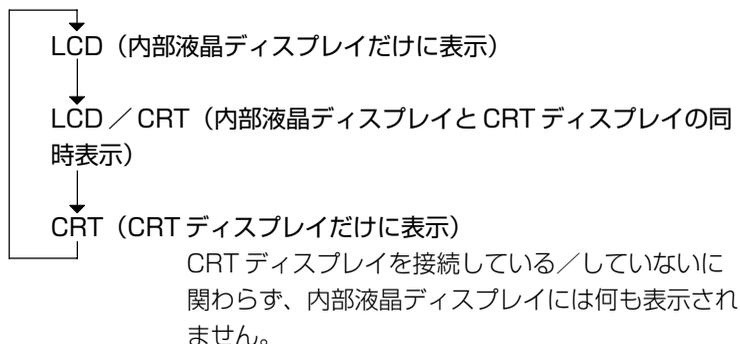
- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [画面] をダブルクリックする
- 3 [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする
- 4 [S3 Duo View +] タブの [表示デバイス選択] で次のいずれかを選択する
 - LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
 - LCD / CRT 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示
 - CRT CRT ディスプレイだけに表示

● 方法2—ユーティリティで設定する

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする
- 3 [Display] タブで [Power On Display] を設定する
 - Auto-Selected CRT ディスプレイだけに表示 (CRT ディスプレイ接続時)
 - Simultaneous 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示

● 方法3—**[Fn] + [F5]** キーを使う

[Fn] キーを押したまま、**[F5]** キーを押すたびに次の順序で切り替わります。



8 メモリを増設する

本製品には、標準で 64MB のメモリが取り付けられています。増設メモリ（別売り）を使用することにより 192MB まで拡張することができます。

警告 ・説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一ふれると危険です。

注意 ・増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグとバッテリーパックを抜いてから作業を行ってください。またスタンバイまたは休止状態を実行しているときには、増設メモリの取り付け／取りはずしは、行わないでください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしをすると、感電、故障のおそれがあります。

・増設メモリを取り付け／取りはずしする場合は、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。

・パソコン本体の使用直後は、本体内部にふれないでください。本体内部が高温になっている場合があります、やけどをするおそれがあります。増設メモリの取り付け／取りはずしは、電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。

・増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。



お願い

- ・増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に、静電気を逃してから作業を行ってください。手近にある金属性のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
- ・スタンバイ機能または休止状態を設定したまま増設メモリの取り付けを行うと、スタンバイ機能または休止状態は無効になります。
- ・増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご使用ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。

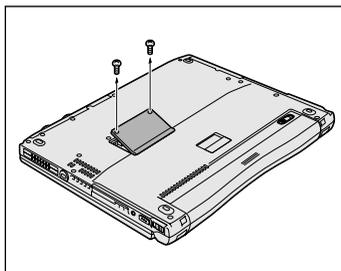
● 取り付け

- 1 データを保存して、Windowsを終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- 4 増設メモリカバーのネジをはずす



お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。



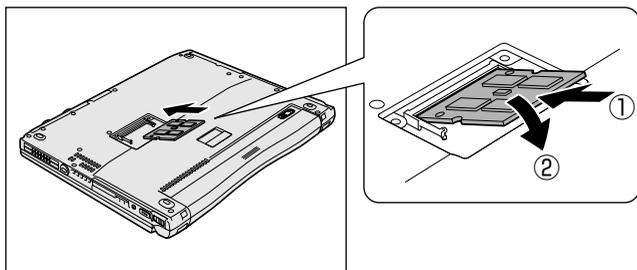
- 5 増設メモリカバーを取りはずす



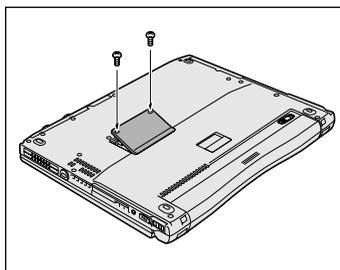
注意 ・ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機械内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機械内部に金属類が入った場合は、電源を切りプラグを抜いて、お買い上げの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

- 6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し
①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリのコネクタを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときには、ペン先などで広げてください。



7 増設メモリカバーを取り付けて手順4ではずしたネジでとめる



8 バッテリーパックを取り付ける

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいか「PC診断ツール」などで確認してください。

☞ 「PC診断ツール」 ⇨ 《オンラインマニュアル》

● 取りはずし



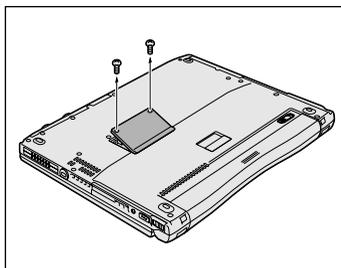
警告

・増設メモリを取りはずす場合は、必ず電源を切り、ACアダプタと電源コードおよびバッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。また、スタンバイ中または休止状態中は、増設メモリの取りはずしを行わないでください。
電源を入れたまま取りはずすと、感電、故障のおそれがあります。

- 1 データを保存して、Windowsを終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

☞ バッテリーパックの取りはずし ⇨ 「3章 1-4 バッテリーパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジをはずす



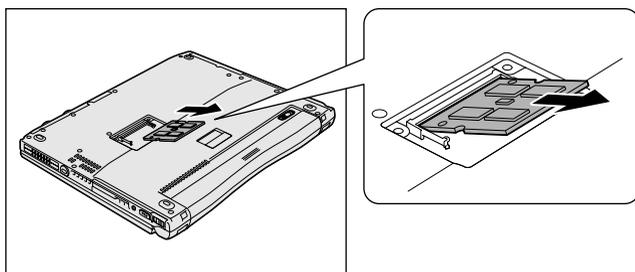
お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。

5 増設メモリカバーを取りはずす

6 増設メモリを固定している左右のフックを開き、増設メモリを増設メモリスロットから取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



7 増設メモリカバーを取り付けて、手順4ではずしたネジでとめる

8 バッテリーパックを取り付ける

☞ バッテリーパックの取り付け ☞ 「3章 1-4 バッテリーパックを交換する」

5

便利な機能

- 1 消費電力を節約する 122
- 2 東芝HW セットアップ 128
- 3 インターネットに接続する 136
- 4 電子メールを使う 155

1 消費電力を節約する

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。「東芝省電力ユーティリティ」を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。

省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリー消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。

● 起動方法

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をダブルクリックする



[コントロールパネル] 画面に [東芝省電力] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。

タスクバーの省電力アイコン () をダブルクリックしても起動できます。



(表示例)



【電源設定】 タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。

また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続] [バッテリーを使用中] には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] は AC アダプタに接続している／していない状態によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の4つの省電力モードが用意されています。すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続]（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中]（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する
名前を変更した後、作成した省電力モードの詳細を設定してください。
 「本項 省電力モードの詳細設定」

● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。



・ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する]

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

● [休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックします。

● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

● 起動方法

- 1 [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする



(表示例)

● [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

● [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。



- ・ディスプレイを最高輝度に設定していても、パソコン本体をバッテリー駆動で使用しているときは、ACアダプタを接続したときより画面が多少暗く表示されます。

● [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。



メモ

- ・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

スタンバイ

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。



お願い

- ・次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
 - ・誤った使いかたをしたとき
 - ・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・バッテリーが消耗したとき
 - ・故障、修理、電池交換のとき
 - ・電源を切った直後にすぐ電源を入れたとき
 - ・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

休止状態

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。



お願い

- ・休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。休止状態が無効になり、データが消失するおそれがあります。
- ・休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態を実行して電源を切ります。休止状態が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

電源オフ

Windows を終了して電源を切ります。

- スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここをチェックすると、Windows のパスワードを入力しないとスタンバイや休止状態から復活できないようになります。

●【アラーム】タブ

【アラーム】タブは【電源設定】タブで【バッテリーを使用中】に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。



バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法や実行する動作を設定します。



バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法、実行する動作やプログラムを設定します。

2 東芝 HW セットアップ

東芝 HW セットアップは、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

● 起動方法

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする



[コントロールパネル] 画面に [東芝 HW セットアップ] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。

[General] タブ以外のタブには、各項目の他に [標準設定] ボタンと [復元] ボタンが表示されます。

[標準設定] ボタン

東芝 HW セットアップのすべての項目の設定をご購入時の状態に戻します。

[復元] ボタン

設定を変更する前の状態に戻します。

詳細については、東芝 HW セットアップのヘルプをご覧ください。

● ヘルプの起動方法

- 1 [東芝 HW セットアップ] を起動後、**?** をクリックする
マウスポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にマウスポインタを置き、クリックする

● 詳細設定

● [General] タブ

BIOS のバージョンやハードディスクドライブのモード、メモリ容量などを表示します。このタブでは設定の変更はできません。



メモ

・ BIOS (バイオス : Basic Input Output System) :
パソコンを動作させるために必要となる基本的なプログラムを集めたもの。

● [Password] タブ

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの設定や削除を行います。

User Password

- Not Registered
ユーザパスワードを設定しません。
- Registered
ユーザパスワードを設定します。

ユーザパスワードの設定

- ① [User Password] の [Registered] をチェックする
- ② [Enter Password] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する文字 など ・ 単独のキーで入力できない (入力するときに[Shift] キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン) [¥] キーや [] キーを押すと ¥ が入力されます。	

- ③ [Verify Password] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする



・パスワードを登録/削除した後、電源を切る前にリセットスイッチを押すと、設定した内容が無効になります。



お願い

- ・パスワードを設定した場合は、忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えておくことをおすすめします。
- ・パスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご依頼ください。
パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は有償です。
またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できるもの）の提示が必要となります。

ユーザパスワードの削除

- ① [User Password] の [Not Registered] をチェックする
- ② [Enter Password] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする



メモ

- ・パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行なってください。

本製品ではユーザパスワードの他に、パソコン本体の環境設定を管理する人のために用意されているスーパーバイザパスワードが設定できます。

🔑 スーパーバイザパスワード ⇨ 「付録 1 スーパーバイザパスワード」

● [Device Config] タブ

パソコンが起動したときに BIOS が初期化する装置を指定します。

Device Configuration

● All Devices

すべての装置を初期化します。通常はこちらに設定します。

● Setup by OS

システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。

● [Parallel/Printer] タブ

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。ご使用になるプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。

Parallel Port Mode

● ECP

ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。

● Standard Bi-directional

双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用する場合に設定します。

● [Pointing Devices] タブ

アキュポイントⅡやマウスについて設定します。

Pointing Devices

● Auto-Selected

システム起動時に、PS/2 マウスが接続されている場合は、PS/2 マウスだけが使用できます。システム起動時に、PS/2 マウスが接続されていない場合は、アキュポイントⅡだけが使用できます。

● Simultaneous

アキュポイントⅡとPS/2 マウスを同時に使用できます。



×

・PS/2 マウスの仕様によっては、[Simultaneous] に設定しても、アキュポイントⅡと同時に使用できない場合があります。その場合は、[Auto-Selected] に設定し、PS/2 マウスだけで使用してください。

● [Display] タブ

表示する装置を選択します。

Power On Display

● Auto-Selected

システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。

● Simultaneous

外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。

☞ CRT ディスプレイの接続

⇒ 「4 章 7 CRT ディスプレイを接続する」

● [CPU] タブ

Processor Serial Number

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

● Enabled

有効にします。

● Disabled

無効にします。

Dynamic CPU Frequency Mode

● Dynamically Switchable

CPU の消費電力・周波数切り替え機能を有効にし、AC アダプタ接続時には高周波数、バッテリー駆動時には低消費電力・低周波数に自動的に切り替えます。

● Always Low

CPU の消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

● [Boot Priority] タブ

Boot Priority Options

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。
通常は [FDD → HDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

Power On Boot Select

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

● Enabled

メニュー起動メッセージを表示します。
電源を入れると、「TOSHIBA」のロゴの下に次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

Press [F2] for the boot device selection menu

このメッセージが表示されている間に[F2]キーを押すと、起動するドライブの選択メニュー画面が表示されます。起動したいドライブに対応したキーを押すと、一時的にそのドライブを起動最優先ドライブに設定し、起動します。

● Disabled

メニュー起動メッセージを表示しません。

● [Keyboard] タブ

キーボードについて設定します。

External Keyboard Fn Key

外部キーボードで[Fn]キーの代わりに使用できるキーを設定します。
[Fn]キーの割り当てをしない場合は、[Disable] に設定します。

[USB] タブ

USB 機器について設定します。

USB KB/Mouse Legacy Emulation

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

● Disabled

レガシーサポートを行いません。通常はこちらに設定します。

● Enabled

レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。

USB-FDD Legacy Emulation

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

● Disabled

レガシーサポートを行いません。通常はこちらに設定します。

● Enabled

レガシーサポートを行います。フロッピーディスクドライブから起動する場合は、こちらに設定します。

● [LAN] タブ

LAN 機能について設定します。

LAN 機能を利用するには、別売りのマルチメディアポートリプリケータまたは PC カードタイプのネットワークアダプタなどをご用意ください。機器の接続方法については『それぞれの機器に付属の説明書』をご覧ください。また、あらかじめネットワーク設定（プロトコル、ネットワーク構成、ドメイン、ワークグループなど）が必要です。

Wake-up on LAN

マルチメディアポートリプリケータを接続した場合に設定できます。ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。Wake-up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

● Enabled

Wake-up on LAN 機能を使用します。

● Disabled

Wake-up on LAN 機能を使用しません。

● [Hardware Alarm] タブ

本体のアラーム音について設定します。

Hardware Alarm Options

● Alarm Volume

アラームの音量をスライダーバーで調整します。

・ Low Battery Alarm

バッテリー消費時の警告音を鳴らす場合は、チェックします。

・ Panel Close Alarm

ディスプレイが閉じたことを知らせる警告音を鳴らす場合は、チェックします。

● System Beep

「Low Battery Alarm」「Panel Close Alarm」以外のビーブ音を鳴らす場合は、チェックします。

3 インターネットに接続する

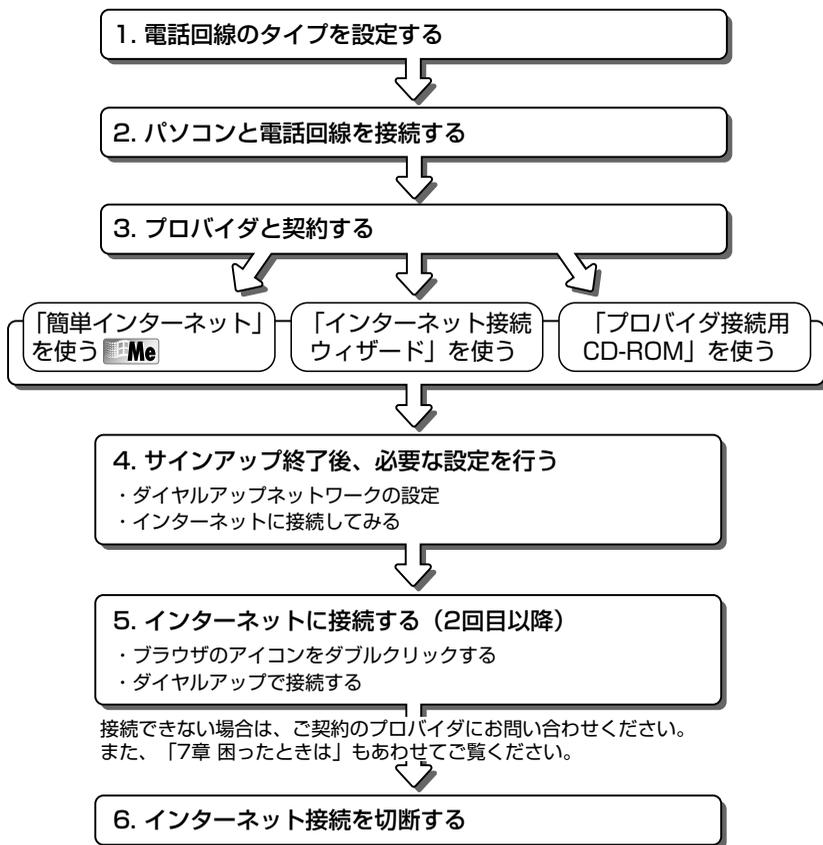
インターネットに接続すると、世界中のコンピュータに好きな時間にアクセスできるので、距離や時間を超えたコミュニケーションができるようになります。



メモ

- ・PHS、携帯電話で接続するには別途接続用機器が必要です。
- ・ISDN回線をお使いになる場合は、市販のターミナルアダプタ（TA）が必要です。

ここでは、設定について次の流れで説明します。



1 電話回線のタイプを設定する

プッシュ式電話機をお使いの場合、ダイヤルボタンを押したときに出る音で電話回線のタイプを確認してください。

パルス ダイヤルボタンを押すと「ブツブツ」と音がするプッシュ式電話機、ダイヤル式電話

トーン ダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がするプッシュ式電話機、ISDN 回線をご使用の場合



・電話回線のタイプが不明な場合は、ご契約の電話会社にお問い合わせください。

Windows Me の場合

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [テレフォニー] アイコン () をダブルクリックする
[コントロールパネル] 画面に [テレフォニー] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。
- 3 [所在地情報] タブで、必要な設定を行う



(表示例)

[所在地からの通話]

- 外線電話をかけるときに必要であれば [外線発信番号] を入力します。ダイヤル先が市内のときは [市内通話]、市外のときは [市外通話] に必要な番号を入力します。
- [ダイヤル方法] に、あらかじめ確認したタイプ (パルスかトーン) をチェックします。

4 [OK] ボタンをクリックする



メモ

・外線発信番号について

「0」などをダイヤルしてから外線につなぐ場合、その数字や記号を半角で入力します。

外線番号に続けて「, (カンマ)」を入力すると、カンマ1個につき約2秒間のダイヤル待ち時間を設定できます。うまくつながらない場合は、「0,」「0,,」のようにカンマをつけて、ダイヤル待ち時間を長くして試してみてください。

● Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [電話とモデムのオプション] アイコン () をダブルクリックする
- 3 [ダイヤル情報] タブで [新しい所在地] をクリックし、[編集] ボタンをクリックする

[所在地の編集] 画面が表示されます。

4 [全般] タブで、必要な設定を行う



(表示例)

[国/地域]

- [日本] に設定します。

[市外局番]

- 現在いるところの市外局番を入力します。

[ダイヤル情報]

- 外線電話をかけるときに必要であれば、[市内通話の場合の外線発信番号]、[市内通話の場合の外線発信番号] にそれぞれ必要な番号を入力します。
- [ダイヤル方法] にあらかじめ確認したタイプ (パルスかトーン) をチェックします。

5 [所在地の編集] 画面で、[OK] ボタンをクリックする

6 [電話とモデムのオプション] 画面で、[OK] ボタンをクリックする

② パソコンと電話回線を接続する

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。

内蔵モデムは、ITU-T V.90 および K56flex に準拠しています。通信先のプロバイダが V.90 または K56flex 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。



注意

- ・内蔵モデムは使用できる国や地域が限定されます。指定以外の国、地域で内蔵モデムを使用すると故障のおそれがあります。使用できる国や地域をよくご確認ください。
- ・内蔵モデムは一般電話回線（アナログ回線）に接続して使用してください。デジタル回線（ISDN 回線など）には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機（PBX）へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。



お願い

- ・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- ・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
- ・雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- ・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

本製品の内蔵モデムは、次の国で使用できます。

アイルランド、アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル

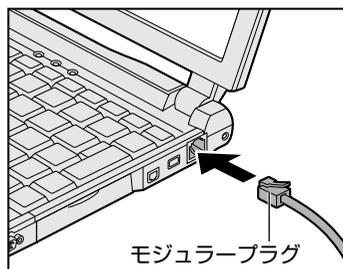
公衆回線網の通信規格は各国により異なりますので、ご使用になる国にあわせて内蔵モデムの国設定が必要です。ご購入時は「日本」に設定されています。

☞ モデムの国設定

⇒ 《オンラインマニュアル-内蔵モデム用国選択ユーティリティ》

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。

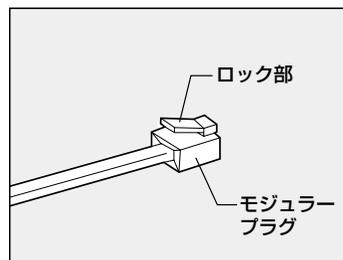


2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

ISDN 回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ (TA) またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。

● 取りはずすとき

取りはずすときは、モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグのロック部分を押さえながら抜きます。



3 プロバイダと契約する

プロバイダに入会するには、オンラインサインアップで入会する方法と、書類をプロバイダから取り寄せ、郵送やFAXなどで入会する方法があります。



メモ

・オンラインサインアップ

プロバイダへの入会契約をインターネットで行うことです。契約するとすぐにプロバイダのサービスを利用することができます。

- ・オンラインサインアップで入会するには、ほとんどのプロバイダでクレジットカードの番号などが必要です。クレジットカードをお持ちでない場合は、各プロバイダにお問い合わせください。

ここでは、オンラインサインアップで入会するときの方法をいくつか説明します。

すでにプロバイダに入会している場合は、プロバイダの案内書をご覧になるか、または「インターネット接続ウィザード」から設定を行なってください。

● 「簡単インターネット」を使う (Windows Me)

プロバイダの一覧から簡単に選択することができます。

- 1 デスクトップ上の [簡単インターネット] () アイコンをダブルクリックする
メッセージが表示されます。
- 2 パソコンと電話回線が接続されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

3 必要な内容を設定する



(表示例)

[プロバイダー一覧]

入会したいプロバイダをチェックする

[ダイヤル方式]

「本節-1 電話回線のタイプを設定する」で設定したタイプにチェックがついているか確認する

[外線発信番号]

「本節-1 電話回線のタイプを設定する」で設定した番号になっているか確認する

4 設定が終了したら、[接続開始] ボタンをクリックする

選択されたプロバイダ専用の接続画面が表示されます。表示される内容に従って、オンラインサインアップを行なってください。

● 「インターネット接続ウィザード」を使う

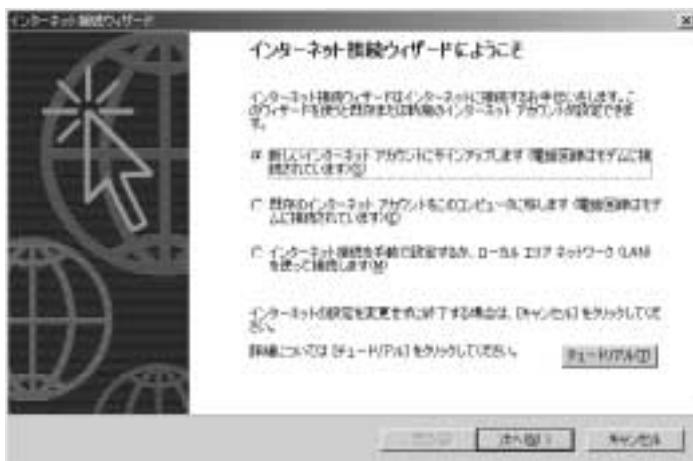


メモ

・「インターネット接続ウィザード」は一般の電話回線（アナログ回線）からのみ接続できます。
PHS、携帯電話、ISDN などからは接続できません。

1 [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [通信] - [インターネット接続ウィザード] をクリックする

画面が表示されます。



2 表示される画面に従って設定を行う

● プロバイダ接続専用 CD-ROM などを使う

あらかじめ入会したいプロバイダの接続ソフトが収録してある CD-ROM などを入手しておきます。

1 パソコン本体に CD-ROM ドライブを接続する

2 CD-ROM をセットする

3 表示される画面に従って設定を行う

4 プロバイダと契約後、必要な設定を行う

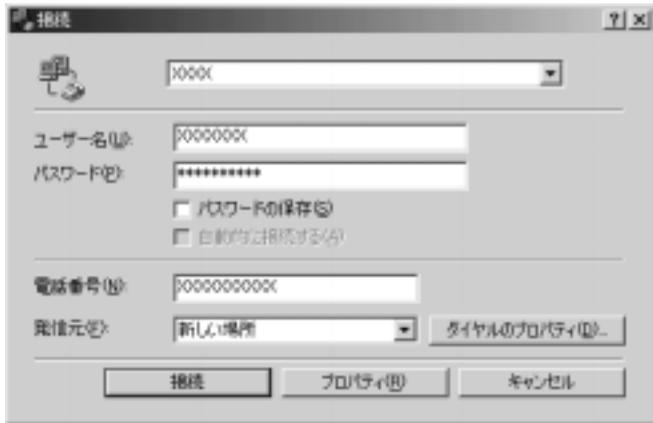
プロバイダとの契約後、パソコンの設定が必要です。プロバイダによって設定内容は異なりますので、詳細が不明な場合は、プロバイダにお問い合わせください。

Windows Me の場合

接続する前に

接続する前に、接続先や発信元に関する内容を入力または確認することをおすすめします。すでに設定されている項目もあります。

- 1 [スタート] - [設定] - [ダイヤルアップネットワーク] をクリックする
- 2 [XX (接続先)] アイコン () をダブルクリックする
- 3 [接続] 画面で必要な設定を行う



(表示例)

[ユーザー名] [パスワード]

プロバイダから指定されたユーザー名、パスワードを入力する



メモ

- ・ [パスワードの保存] をチェックする () と、次回以降接続するときにパスワードの入力が不要になります。

[電話番号]

接続先の電話番号を確認する

アクセスポイントの電話番号が表示されます。正しいか確認しましょう。

[発信元]

手順4に進んでください。

4 **[ダイヤルのプロパティ]** ボタンをクリックする

発信元の情報を設定します。



(表示例)

[登録名]

発信元に名前をつける

新たに発信元を追加する場合は、[新規] ボタンをクリックします。

発信元の切り替えは、[登録名] の▼ボタンをクリックして選択します。

[国名/地域] [市外局番]

発信元の国名/地域や市外局番を入力する

[所在地からの通話]

外線発信番号、ダイヤル方法があっているか確認する

5 **[ダイヤルのプロパティ]** 画面で [OK] ボタンをクリックする

以上で設定は完了です。

● インターネットに接続してみる

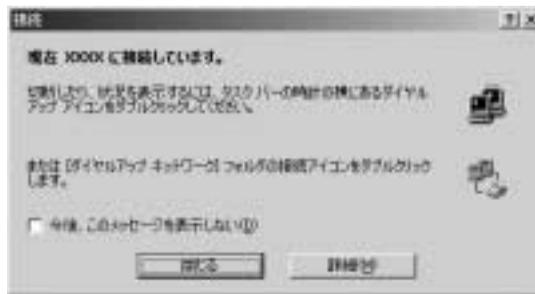
設定が完了したら、実際にインターネットに接続してみます。

1 [接続] 画面で、[接続] ボタンをクリックする



(表示例)

インターネットへの接続が開始されます。しばらく時間がかかる場合もあります。接続が成功すると、次の画面が表示され、タスクバーに接続中アイコン () が表示されます。

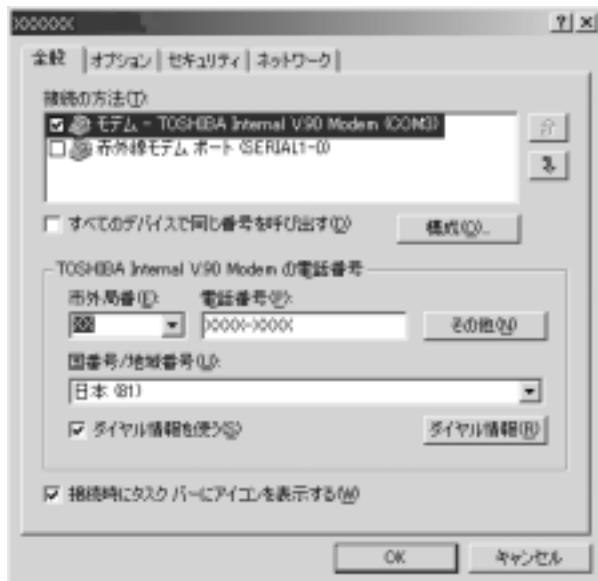


(表示例)

2 内容を読んで [閉じる] ボタンをクリックする

これでインターネットへの接続は完了です。

- 3 [プロパティ] ボタンをクリックする
[XX (接続先)] 画面が表示されます。
- 4 [全般] タブで、[TOSHIBA Internal V.90 Modem の電話番号] を確認する



(表示例)

アクセスポイントの電話番号が表示されます。正しいか確認しましょう。

- 5 [XX (接続先)] 画面で [OK] ボタンをクリックする
以上で設定は完了です。

● インターネットに接続してみる

設定が完了したら、実際にインターネットに接続してみます。

- 1 [XXへ接続] 画面で [ユーザー名] と [パスワード] を確認し、[ダイヤル] ボタンをクリックする



(表示例)

インターネットへの接続が開始されます。しばらく時間がかかる場合もあります。接続が成功すると、次の画面が表示され、タスクバーに接続中アイコン () が表示されます。



(表示例)

- 2 内容を読んで [OK] ボタンをクリックする

これでインターネットへの接続は完了です。

ホームページを見たいとき

デスクトップ上の「Internet Explorer」アイコン () をダブルクリックすると「Internet Explorer」の画面が表示されます。アドレスを入力したり、検索機能を使って好きなページを見てみましょう。

メールの送受信をしたいとき

メールの送受信をするには、初めに設定が必要です。

☞ 電子メールの設定について ☞ 「本章 4 電子メールを使う」

5 インターネットに接続する（2回目以降）

プロバイダとの契約やパソコンの設定が完了している場合の接続方法です。あらかじめパソコンと電話回線が接続されているか確認ください。

☞ 接続方法 ☞ 「本節 2 パソコンと電話回線を接続する」

インターネットに接続する場合は、接続画面から必要な情報を入力または確認します。

● 方法1 ブラウザのアイコンから接続する

1 デスクトップ上の「Internet Explorer」アイコン（)をダブルクリックする

接続画面が表示されます。

2 画面の内容を入力または確認し、[接続] ボタンをクリックする

● 方法2 ダイヤルアップアイコンから接続する

Me

- ① [スタート] - [設定] - [ダイヤルアップネットワーク] をクリックする
- ② [XX (接続先)] アイコン（)をダブルクリックする
- ③ 画面の内容を入力または確認し、[接続] ボタンをクリックする

2000

- ① [スタート] - [設定] - [ネットワークとダイヤルアップ接続] - [XX (接続先)] をクリックする
 - ② 画面の内容を入力または確認し、[ダイヤル] ボタンをクリックする
- 接続されるとタスクバーに接続中アイコン（)が表示されます。



× Me

・ダイヤルアップアイコン（)または（)は接続先の番号ごとに作成されます。接続する場所に応じて番号を使い分ける場合には、わかりやすい名前をつけると切り替えが簡単です。

6 インターネット接続を終了する

● Windows Me の場合

代表的な切断方法を説明します。

接続が切断されると、タスクバーの接続中アイコン（）が消えます。

● 方法 1

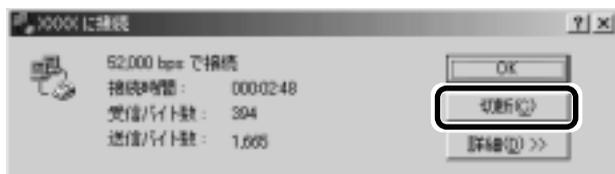
- 1 タスクバーの接続中アイコン（）を右クリックし、表示されたメニューから [切断] をクリックする



(表示例)

● 方法 2

- 1 タスクバーの接続中アイコン（）をダブルクリックする
- 2 [切断] ボタンをクリックする



(表示例)



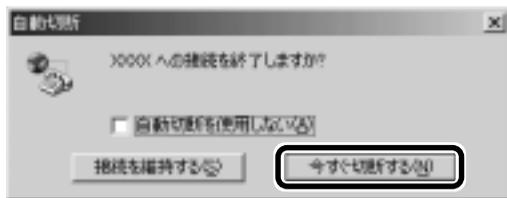
メモ

・回線状況などの影響で、実際の接続状態は表示されたスピードより遅い場合があります。

● 方法3

「Internet Explorer」が表示されている場合です。

- 1 「Internet Explorer」画面右上の閉じるボタン（**X**）をクリックする
- 2 [今すぐ切断する] ボタンをクリックする



(表示例)

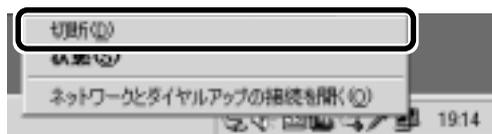
● Windows 2000 の場合

代表的な切断方法を説明します。

接続が切断されると、タスクバーの接続中アイコン（)が消えます。

● 方法1

- 1 タスクバーの接続中アイコン（)を右クリックし、表示されたメニューから[切断]をクリックする



(表示例)

● 方法2

- 1 タスクバーの接続中アイコン () をダブルクリックする
- 2 [切断] ボタンをクリックする



(表示例)



・回線状況などの影響で、実際の接続状態は表示されたスピードより遅い場合があります。

● 方法3

「Internet Explorer」が表示されている場合です。

- 1 「Internet Explorer」画面右上の閉じるボタン () をクリックする
- 2 [今すぐ切断する] ボタンをクリックする



(表示例)

4 電子メールを使う

電子メールとは、インターネット上でやりとりする「手紙」です。郵便の手紙と比べて料金が安く、世界中どこでも短時間でつきます。また電話などと違い、時間を気にせず送ったり、受け取ったりできます。さらに画像や文書ファイルなどデジタルデータもメールと一緒に送れます。「Eメール (Electric Mail の略)」や、「インターネットメール」、「メール」と呼ぶこともあります。本書では「メール」という言葉を使用します。

1 メールのおしくみ

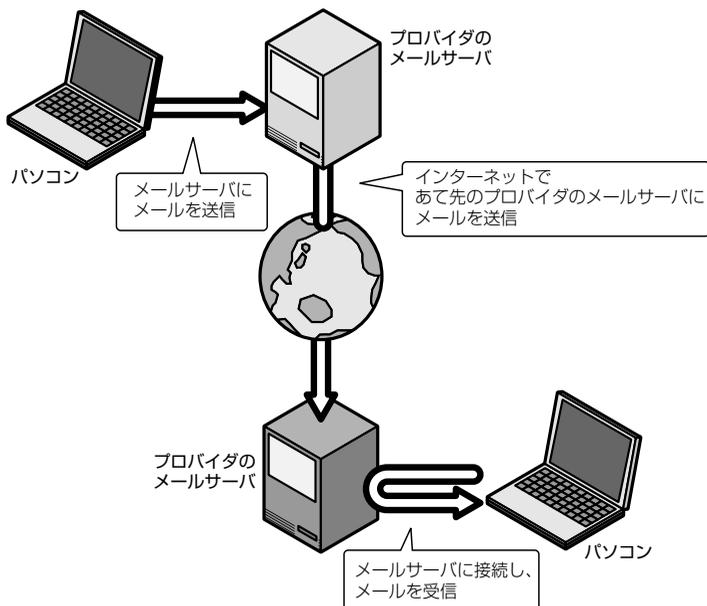
パソコンで作った文章や画像などのデータを送ると、電話回線を介してプロバイダのメールサーバに届きます。プロバイダのメールサーバは、あて先のプロバイダのメールサーバにデータを送ります。データを受け取ったプロバイダは、受信者別にメールを整理して保存します。受信者は、プロバイダのメールサーバに接続し、自分あてに届いたメールを受け取り、これをパソコンに保存します。このように、メールは、自分の都合に合わせて送受信することができます。



メモ

・メールサーバ

メールの配信サービスを提供するコンピュータのことです。メールの配信では、送信のために利用される SMTP サーバと、届いたメールを保存し、受信者が取りにくるのを待つ POP サーバの2種類があります。



② 必要な設定を行う

本製品にはメールソフト「Outlook Express」がプレインストールされています。

ここでは「Outlook Express」を使った設定について説明します。その他のメールソフトを使う場合は、『メールソフトに付属の説明書』をご覧ください。

ここでは、すでにプロバイダへの入会が完了している場合について説明します。

☞ プロバイダへ入会していない場合

⇒ 「本章 3 インターネットに接続する」

また、ここで説明している内容は一般的な手順です。詳細が不明な場合はプロバイダにお問い合わせください。

初めてメールを使うときは、プロバイダのメールサーバの種類やメールサーバに接続するアカウント名、パスワードの設定が必要です。次の手順で行なってください。

1

 Me

デスクトップ上の [Outlook Express] アイコン () をダブルクリックする

または、

[スタート] - [プログラム] - [Outlook Express] をクリックする

 2000

[スタート] - [プログラム] - [Outlook Express] をクリックする

Outlook Express が起動すると、[インターネット接続ウィザード] の [名前] 画面が表示されます。

[名前] 画面が表示されない場合は、Outlook Express 画面で [メールアカウントの設定] をクリックしてください。

2 [表示名] に名前をローマ字で入力し、[次へ] ボタンをクリックする

ここで入力した名前が、メールを送信したとき [送信者] に表示されます。



[インターネット電子メールアドレス] 画面が表示されます。

3 [既存の電子メールアドレスを使用する] をチェック (☑) した後、メールアドレスを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

プロバイダから割り当てられているメールアドレスを半角英数字で入力します。



[電子メールサーバー名] 画面が表示されます。

- 4** 電子メールサーバ名を設定し、[次へ] ボタンをクリックする
受信メールサーバ、送信メールサーバの種類は、ご契約のプロバイダによって異なります。プロバイダから送付された書類をご確認のうえ、入力してください。



[インターネット メール ログオン] 画面が表示されます。

- 5** アカウント名とパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

[アカウント名] には、ユーザ名を入力します。ユーザ名とパスワードは、プロバイダとの契約時に決まります。

プロバイダから送付された書類をご確認のうえ、入力してください。



[設定完了] 画面が表示されます。

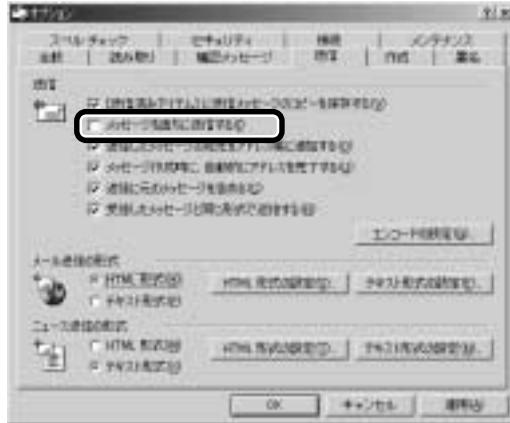
- 6** [完了] ボタンをクリックする

以上で設定は完了です。

オプション2

[送信] タブの [送信] で [メッセージを直ちに送信する] のチェックをはずす

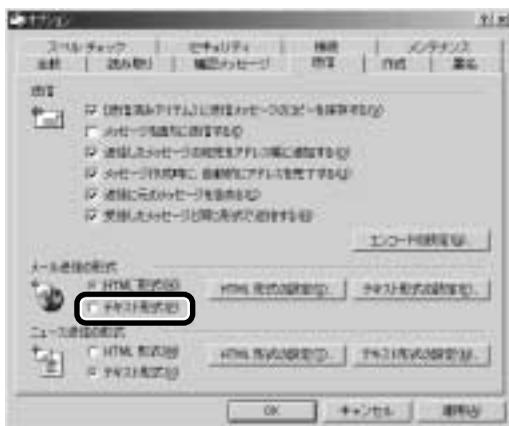
この設定を行うと、メールを書いた時点では送信せず、いったん送信トレイに保管します。電話回線に接続したとき、メッセージの送受信をまとめて行う設定になります。



(表示例)

オプション3

【送信】 タブの【メール送信の形式】で【テキスト形式】をチェックする()
 どのメールソフトでも読めるようにするには、テキスト形式で送信します。
 HTML形式で送信した場合、相手のメールソフトがHTML形式に対応してい
 ないときは、文字化けしてしまい、メッセージが正しく表示されません。



(表示例)

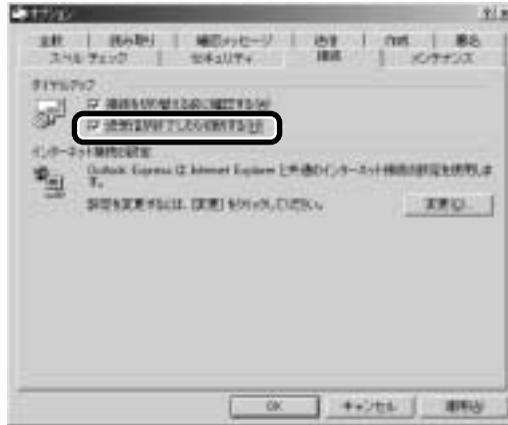


・文字化け

文章が意味不明な文字の羅列で表示され、読めない状態のことです。
 データのやり取りをするパソコンやアプリケーション同士の設定が
 異なる場合などによく起こります。

オプション4

[接続] タブで [送受信が終了したら切断する] をチェックする ()
送受信が完了したら、自動的に電話を切る設定になります。



(表示例)

3 [OK] ボタンをクリックする